

## 活動報告

団体名	酪農学園大学環境 GIS 研究会
活動名	効率的かつ統制のとれた復旧作業のための地理情報作成事業
活動期間	2019/10/13~2019/11/11
活動の成果	<p>発災直後から人工衛星のデータを使用した地図の作製を始めたことにより、初期段階で各地の被災状況を可視化することができた。これにより現場での地域の被災状況の確認を速やかに行うことができ、対応の優先順位の決定などに役立てられた。さらにはスマホやタブレットなどのデバイスで、地図を見れるシステムを活用することにより、土地勘のない支援者でも現場を移動しながら発災前後の状況を確認することができるようになった。特に、これまで大規模な災害による被害を経験したことのなかった宮城県丸森町においては、町役場が浸水したこともあり、被災初期段階の指示系統が混乱状態にあった。また災害ボランティアセンター開設後も、様々な団体による支援が始まったため、全体としての状況把握が困難であったことに加え、浸水、土砂災害により、交通状況の悪い地域については対応が難しかった。このような状況下において、フッ素加工した大判地図を用いることで、各支援団体が地図に実際の状況を書き込み、全体的な情報の共有を可能とした。ボランティアによる初期段階での立ち入りが難しかった地域についても、地区センターに地図を設置することで現場に立ち入る前に土砂災害などの状況を把握できたことで、その後の対応をスムーズに行うことができた。</p> <p>学内で、学生、教職員、一般向けに行った活動報告会には30人以上が参加してくださいました。外部からは、特に北海道厚真町の被災者の方やボランティア関係者の方が参加され、今後の活動に向けて有意義な意見交換をすることもできた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>私達の活動にご支援いただき誠にありがとうございました。時代の移り変わりとともに、私たちの活動もインターネット上で使えるシステムの開発などが多くなっています。そんな中、今回はパソコンなどのデバイスや、ネット環境、電気などのインフラ復旧の目途が立たない発災初期の活動となりました。今回の活動で使用したフッ素加工の大判地図は、発展途上国などでの支援でも使用経験のあるものです。限られた資源の中でも、地図上でのコミュニケーションや意思伝達を円滑にし、今回の活動の中心軸となりました。しかしながら特殊な加工であることから、印刷費等の負担は大きくなってしまいます。皆様からのご寄付により、迅速かつ有効な支援活動することができましたこと改めてお礼申し上げます。</p>

(活動のようす)

